



子どもを信頼する

地球温暖化とはいえ、いつまでも暑いなと思っていたら、いっきに秋はやってきました。公園には色とりどりの葉っぱや木の実が落ちていて、わくわくするような季節です。また、焼き芋パーティー、七五三パーティーなど、食欲の秋にはぴったりな行事も盛りだくさんです。美味しい匂いや秋の素材にたっぷりと触れて、秋が深まるこの時期を堪能したいと思います。

さて、先月の「ひのでアート展」では、コロナ感染対策の中で、昨年に引き続き、密を防いで3部制での開催とさせて頂きました。以前のように、みんなでカレーランチを食べながら…ということはありませんでしたが、今年度初めての保護者参加行事となったこともあり、園舎の中は笑顔と楽しそうな声に包まれていました。3部制になったことで保護者の方々と日頃の様子がゆっくりとお話しできると思っていましたが、1時間での交代は、あっという間でしたね。不行き届きのことがあったかと思いますが、保護者の方からは、おたより帳や口頭で、子どもたちの発想の豊かさへの驚きや、楽しかったことを知らせて頂き嬉しく思っています。来年度の感染状況は想像できませんが、みんなが楽しくなる新たな展開を考えていけたらと思っています。何より、無事に大きな行事が皆さんの協力のもとで行えましたこと、感謝申し上げます。

先日、教員を退職後、サッカーの指導をされていた畑 喜美夫氏の話聞く機会がありました。たくさんのお話の中で、“可能性にふたをしてしまっていないか”という言葉がありました。思い込みや過去の限界から、自分で可能性のふたをしているのではないか、「僕にはできる」「君ならできる」と限界のふたを取り、思い込みをやめることだという内容でした。可能性は未来の力、可能性を信じることだとも言われました。いろいろ考えさせられます。

可能性のふたをしていない人といえばこの人、体操の内村航平選手です。(8月の園だよりでも登場しましたね…好きなのです)夏のオリンピックで予選敗退後、久しぶりに公の試合に登場しま

した。迫真の美しい演技と、最後にピタリと決めた見事な着地に会場全体が息をのんで応援している様子に感動しましたが、結果は6位。それでも、内村選手は、「体操をやめようと思ったことがない。」と、笑顔でインタビューに答えていました。ここまで好きなことに出会える人生は素敵ですね。

園内報58号の中で理事長が、「“三つ子の魂百まで”の言葉がありますが、乳幼児期に身体を通して身につけた楽しかった体験や達成感などは、潜在能力として一生持ち続けるという点で、性格や人格に影響するともいわれています。もちろん、学童期を過ぎてもスポーツや友人関係などで特定の分野の非認知能力は成長しますが、総合的に能力が絡み合って伸びるのは乳幼児期だけです。人生すべての幸福度は乳幼児期の育ちにあると言っても過言ではないでしょう。貴重なこの時期を理解して、快い楽しい環境を用意して非認知能力や主体性を伸ばしてあげたいものです。」と、伝えています。今、目の前にいる子どもたちの未来への可能性は無限大です。あんなことが出来ない、こんなことも出来ない、他の子どもと比べて落ち込むよりも、その子の持ち味、得意な事を見い出して、好きなことにとことん安心して打ち込める環境を用意してあげたいと思います。

運動会、ひのでアート展が終わって、年長組さんは早くも保育園生活最後の「発表会」へと気持ちが膨らんできています。大太鼓がやりたいとか、去年は劇だったから踊りがしたいなどと目標を持っているようです。子どもたちと意見を出し合いながら、好きな合奏や踊り、劇などがのびのびと表現できるように見守っていききたいと思います。

コロナウイルスに対する日常の生活が緩和されてきていますが、まだまだ油断はできません。気候も良いことから、お出かけも増えてくると思いますが、引き続き、コロナ感染予防と体調管理をしていただきますようお願いいたします。 園長

～みんなの遊び場～

スライダーを作っているお父さんたち



トンネルの続きを製作中のお父さん



完成! 上手く転がるかな?



ロビーには、アート展に参加されたお父さんお母さん方が、大型段ボールに空き箱でスライダーをつけたり、トンネルの続きを足したりしてできた子どもたちのあそび場があります。保護者の皆さんがお子さんと一緒に楽しんでくださることは、子どもにとっては安心感に繋がったり、牛乳パックや段ボールを切ったりくっつけたりしながら考えたり工夫することに没頭する姿は、子どもたちの自分もやってみたい、やってみようという気持ちを掻き立てられたのではないかと思います。愛が詰まったあそび場で子どもたちは一層喜んで遊ぶことでしょう。お父さんお母さんたちの力作を引き継ぎ、ロビーはこれからも様ざまに形を変えながら、子どもたちの“なんだろう、やってみたいな”という意欲や探究心を育む場所にしていきたいと思っています。

まだまだ一緒におしゃべりをしながら作りたいという方がおられましたら、声をかけてくださいね。

乳児園主任